

高齢者の色彩快適環境の研究

— ねまきの色彩イメージ分析を中心として —

和洋女子短大 ○我妻美奈子 立正大学 三友雅夫

目的：超高齢社会では、寝たきり等の療養を必要とする高齢者の介護問題が派生してくる。特に障害を伴う高齢者にとって、生きがいを助長しかつストレスを感じさせない、あるいは症状の悪化の緩和をはかる快適な“ねまき”の創造・開発が強く求められくる。しかし、これまでのところ、こうした問題意識からするねまき研究はごく僅かであり、今後の研究の積み重ねが要請される。本研究は、第45・46回大会の延長線上の研究として、主に色彩快適環境に着目し、上記の問題意識に立ち、高齢者にとっての快適な“ねまき”について分析・検討することを目的とした。

方法：調査期間は、1994年8月～10月。12種類（組み合わせ：柄2×系統色6）のねまきを展示し、被検者に回答を求める集合調査法を採用した。総勢495名の方を被検者として調査を実施した。有効回答者数は424名、欠損値を除外した集計票は378票であった。質問紙は、Ⅰ．基本属性、Ⅱ．ねまきの嗜好性、Ⅲ．色彩嗜好性、Ⅳ．色彩イメージの4本柱で構成した。それぞれ複数の項目を設定した。特に、Ⅱ．は、「最も好きな組み合わせ」～「飽きがくる組み合わせ」まで、13の嗜好（組み合わせ、柄・系統色）の質問項目を設定した。統計処理は、主にSAS（Version 6.08）を使用した。

結果：①「年齢」および「職業」と「ねまきの嗜好性」とのクロスで、「組み合わせ（柄・系統色）」「柄」「系統色」の嗜好にいくつか有意な差が認められた。②快適性（環境）については、色彩（青・白・赤・緑・茶・灰・紺系統）の言語イメージについて因子分析し、それぞれ4因子を抽出した。詳細については、発表時に資料を配布し報告する。